7/1 福井

東京ステージ4水準

コロナ悪化鮮明 五輪影響も

東京都は30日、新型コロナウイルスの感染者が新たに714人報告されたと発表した。直近7日間を平均した1日当たりの人数は再び500人台に上昇して508・4人。人口10万人換算では25人を超え、政府の対策分科会が示すステージ4（爆発的感染拡大）の水準に達した。700人を超えるのは5月26日以来。21日にまん延防止等重点措置へ移行して10日間で悪化が鮮明となり、緊急事態宣言の再発令や東京五輪の観客数問題が改めて浮上する可能性がある。【4面に関連記事】

都はステージ4相当の状況が視野に入った場合、直ちに酒類提供の全面停止を要請する方針を示している。30日に退院を表明し、当面オンラインで公務に当たる小池百合子知事の対応が注目される。都の担当者は「感染者の増加が止まらず、人出が増え続けると感染爆発につながりかねない」と危機感を示し、特に若年層に人との接触機会削減を呼び掛けた。

国立感染症研究所は30日、厚生労働省に対策を助言する専門家組織の会合で、関東の感染者に関してインドに由来するデルタ株の割合が6月末時点で30％前後との推計結果を報告。7月半ばには50％を超える可能性があるとした。一方で、高齢者割合は昨秋以降で最も低い水準となっており「ワクチン効果が示唆される」との見解を示した。

会合では京都大や東北大が今後の予測を提出。デルタ株の影響が小さく東京五輪の影響がないというシナリオでも、7月中に都内で1日当たりの感染者数が千人を超え、その後2千人まで増加し得るとした。座長の脇田隆字・感染研所長は記者会見で、デルタ株の影響から今後の感染拡大の速度が従来よりも速くなる可能性があると強い懸念を示した。

一方、菅義偉首相は30日に開かれた新型コロナ対策の関係閣僚会議で、企業・大学対象のワクチン職場接種について新規受け付けの停止を継続し、受け付け済み分については精査して対応する意向を示した。

都内の6月は新規感染者数が計1万2979人だった。前半は緊急事態宣言の影響で減少が見られたが、21日に緊急事態宣言からまん延防止等重点措置に移行した後は感染者数が前週の同じ曜日を上回る日が続き、リバウンドの傾向が特に強まっている。30日は死者3人も確認された。国内ではクルーズ船の乗客乗員を含めたこれまでの感染者は計80万450人となった。